



SansAmp Character Series

USER GUIDE

1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用前にかならず内容をよくお読みください。
Character Series は、豊富なノブコントロールを持ち、使いやすく、独自の 100%アナログ SansAmp 技術を採用した、多機能ペダルです。パワーアンプを駆動するプリアンプとしても、ギターアンプ付きのストンプボックスとしても、さらに、直接録音機材に接続することも可能です。ノブを回すだけで、さまざまな時代のアンプスタイルサウンドを再現可能です。Character コントロールは、トーンの調節範囲全体を変更。全てのコントロールとスピーカーシミュレーションは、それぞれのアンプスタイルに合わせて設計されています。カスタマイズされたアンプスタイルを持つキャラクターシリーズペダルはお値段以上の価値を提供します。

2 接続

アンプとの接続：

SansAmp の出力を直接パワーアンプ INPUT または、「エフェクトリターン」接続します。アンプの各コントロールが無効になります。これによりアンプのプリアンプ部をスルーして本機でコントロール可能です。

注意：

本体のボリュームが 0 にしてから接続してください。
アンプをオンにし、それからゆっくりと本体の音量を上げます。全体的に大きすぎる場合は、1/4" Out Boost スイッチがオフ（上）になっていることを確認してから、それに応じてプリセットを編集します。音量が不足している場合は、1/4" Out Boost スイッチを押し込んで 10dB を追加します。

SansAmp をアンプのフロント入力（メインの入力端子）に接続することもできますが、アンプの入力が過負荷にならないように、SansAmp のレベルを必ずユニティゲイン（出力レベルが本機の ON/OFF 時ではほぼ同じ状態）に近づけてください。

2 接続

フロント入力を使用するときにアンプを設定するためのヒント：

1. 低ゲインチャンネル入力に接続します。
2. Bright スイッチをオフにします。
3. プレゼンスコントロール（該当する場合）を 12 時以下に設定します。
4. トーンコントロールをできるだけフラットに設定します。

ダイレクトにレコーディングする：

ミキサー / レコーダーの入力に直接接続して、SansAmp のオンボードサウンドを使用することができます。ミキサー / レコーダーのようなフルレンジシステムでは幅広い周波数を録音 / 再生が可能です。SansAmp の EQ 設定を調節してベストなサウンドを見つけてください。

3 入出力

1/4" フォン入力：

1/4" フォン 1M Ω 、インストゥルメントレベル。本端子はバッテリー使用時のスイッチ・ジャックとなりますので、プラグが刺さっている状態では常にバッテリーが消耗されます。バッテリーの消耗を防ぐため、本機を使用していないときはプラグを抜いてください。

注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。

1/4" フォン出力：

1k Ω の低インピーダンス出力により、バイパス時も、シグナルを損なうことなく駆動できます。

4 コントロール

LEVEL：

1/4" フォン出力と XLR 出力の両方の出力レベルを調節します。

LOW, MID, HIGH：

LOW, MID, HIGH の EQ セクションは、スタジオミキシングボードのように、完全なイコライジングコントロールが可能です。本機の EQ セクションはカットするだけのパッシブトーンコントロールとは異なり、12 時位置を ± 0 としてカット、ブーストします。

DRIVE：

入力感度、および全体のゲイン量を調節します。真空管アンプのオーバードライブを再現します。

CHARACTER：

各スタイルのアンプに関連付けられているトーンの調節範囲全体を変更します。周波数応答を修正することに加え、アタックとドライブ特性に影響を与えます。そのため、Character コントロールを調節した後、ゲインとトーンの設定を調節する必要がある場合があります。

5 スピーカーシミュレーション

キャビネットを複数のマイクでマイキングした様なスムーズなサウンドを再現します。この機能で使用するキャビネットに悪影響を及ぼすことはありません。スピーカーシミュレーションはEQコントロールと連携して、全体的なサウンドをカスタマイズします。ただし、必要に応じて、スピーカースイッチ（）を解除することで、スピーカーシミュレーションを無効にすることができます。多くのアンプには高音が強調されたプリアンプセクションがあり、このようなアンプのフロントインプットを使用する際、より自然なプリアンプサウンドが得られます。逆に、高音を強調しないパワーアンプやアンプのエフェクトセンドに入力する場合は、その不足を補うためにペダルのハイコントロールを増やす必要がある場合があります。

※本機にはアンプのスピーカーアウト信号を入力することは出来ません。誤った接続を行うと本機やアンプ等周辺機器を破損する恐れがあります。

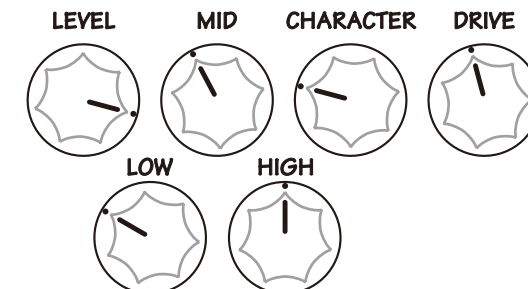
6 使用上のヒント

- ◆ 本機のコントロールは異常に緻密なセッティングを可能にするため細かく設定されています。最大の結果を得るためには、すべてを最大に設定する必要はありません。
最適な設定を見つけるには、12時のトーンコントロールから始めて、必要に応じてカットまたはブーストします。設定はアンプや環境によって大きく異なるため、その都度ベストなサウンドを探してください。
- ◆ 本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。本機のコントロールは異常に敏感であり、高レベルの出力を出すために最大レベルの入力を必要としません。本機に入るノイズを最小限に抑えるために、エフェクターは、トーンコントロールをフラットに設定してください。もしブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定してください。シングルコイルピックアップはノイズを生成する可能性が高くなります。しっかりとノイズ対策を行ってください。
- ◆ 演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、本体を本機に直接接続してください。
その他エフェクトを使用する際は一般的な使用法として、
本機の前：コンプレッサー、エンベロープフィルター、ワウ等
本機の後：コーラス、ディストーション（その他）、エコー、リバーブ、ボリュームペダル等をおすすめしますが、お好みに合わせて配置してください。
- ◆ バッファードバイパスは、「トゥルーバイパス」のポップとクリック、および複数のペダルを接続したときの高音痩せなどの欠点や、スイッチング回路や長いケーブルによる信号のロスを軽減します。
- ◆ バッテリーの電圧が低下し始めると（約6ボルト）、LEDは著しく暗くなります。

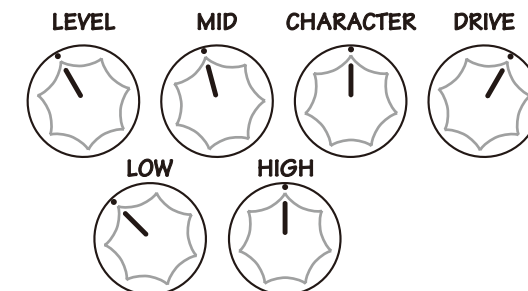
Blonde

サンプルセッティング

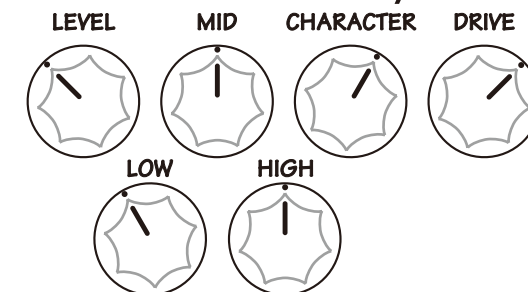
CLEAN



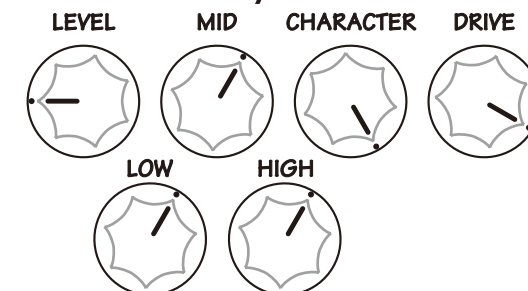
BLUES



SINGIN' '59 BASSMAN®-Style

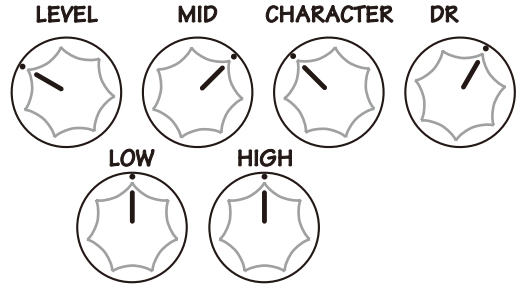


TED NUGENT-Style

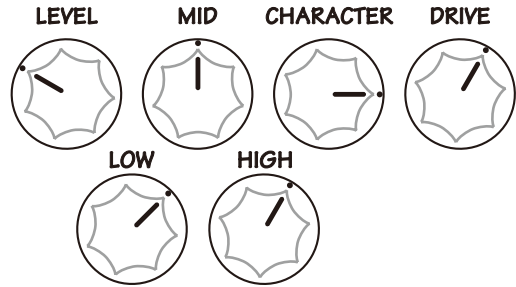


British サンプルセッティング

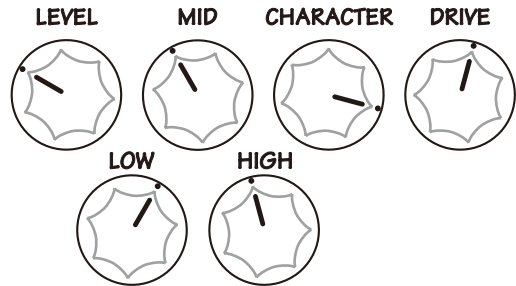
BLUESBREAKER-Style



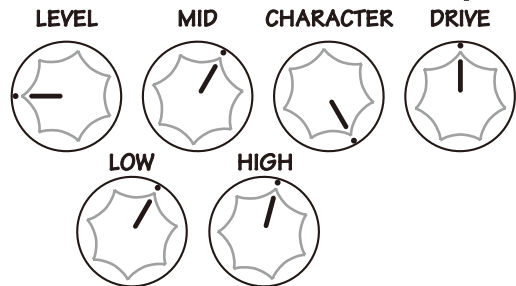
JCM 800®-Style



VAN HALEN-Style

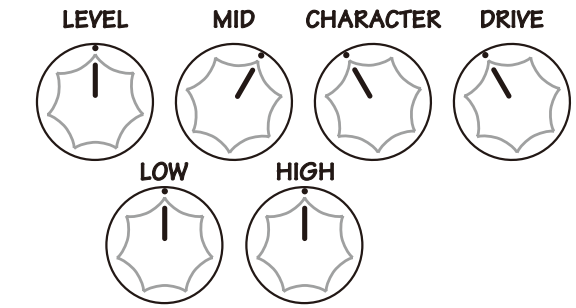


BRITISH CRUNCH / AC/DC-Style

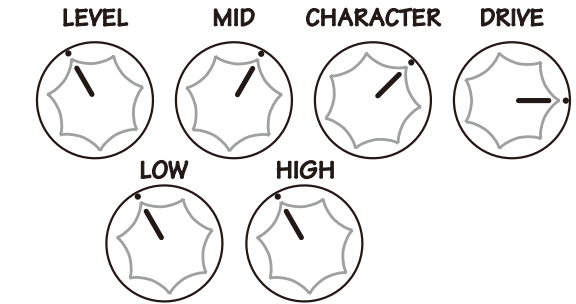


Liverpool サンプルセッティング

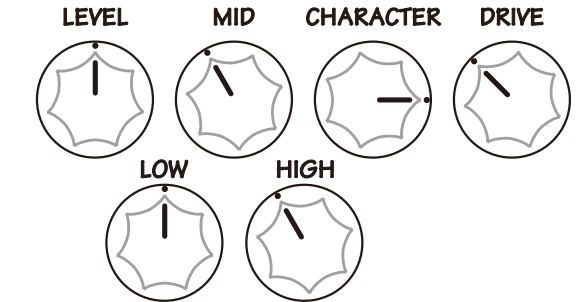
CLEAN



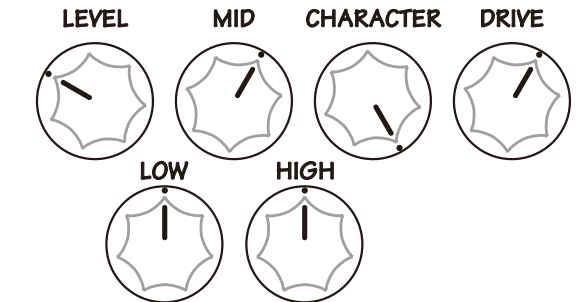
SINGING AC30®-Style



CRUNCH / TOM PETTY-Style



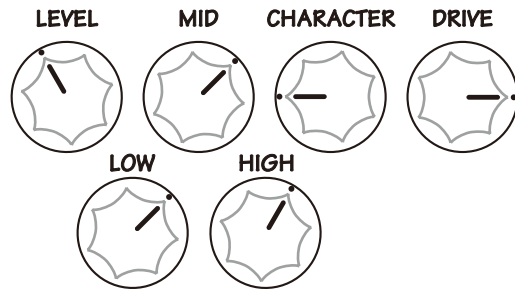
CRUNCH / BRIAN MAY-Style



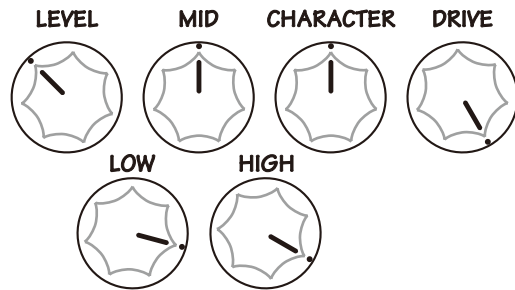


サンプルセッティング

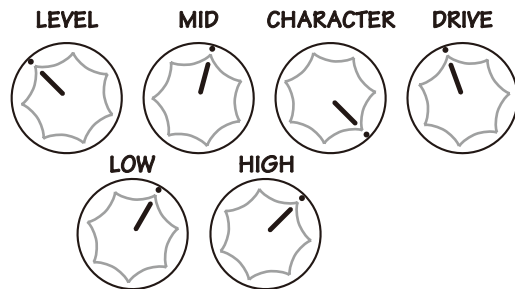
BRITISH POP



T-REXTACY



TWANGY ZEP



SABBATH-Style BASS

